

・演 題：「なくなる災害犠牲者」

—つたわらない避難情報・つたわらないもどかしさ—

・講演概要：

大きな自然災害が発生すると聞こえてくるのが、「死者何名」「行方不明者何名」災害発生のたびにメディアで報じられます。土木技術の発展により防災に関しても整備がなされ、気象情報や災害予知の精度も高くなり 情報伝達の手段も進歩した今日 それにもかかわらず犠牲者が出る。

「どこに原因があるのか、どうすればなくすことができるのか」防災士の立場から現在行なっている中学生・小学生への防災教育、市民（自治会）への啓蒙活動から見えてくる課題について話をさせていただきます。

古俣和博（こまた かずひろ）プロフィール

1947年 新潟市中央区船場町に生まれる（71歳）

1970年 東洋大学土木工学科（土質工学専攻）卒業 同年 榊福田組入社

1974年 榊福田組 自己都合により退社

1985年 福田石材(株)入社

2017年 福田石材(株)退職（勤続32年）

・NPO 法人日本防災士会新潟県支部会員（県防災コーディネータ登録）（2007年）

・新潟市防災士の会会員（西区支部）

・社団法人 日本砕石協会 技術・安全登録講師

（資格）

・赤十字幼児安全法支援員

・新潟市消防局応急手当普及員

・高等学校教諭二級普通免許 ・砕石業務管理者資格 ・一級土木施工管理技士 ・甲種火薬類免許

（活動経歴）

2017年4月の退職後 新潟市西区 坂井輪小学校区防災会アドバイザーとして防災活動を支援  
地域自治会の防災訓練・地区防災計画作成を支援

2018年5月から7月 小新中学校1年生に防災教育を行なう延べ10日（50分×10日：500分）

課題：災害防災の初歩、地域の生い立ちを知る座学

ワークショップ：災害図上訓練DIG体験

（今後の予定）9月26日から11月14日（延べ10日）小新中学校3年生に対し防災教育を予定

課題：避難所運営について座学

ワークショップ；避難所運営 HUG 体験